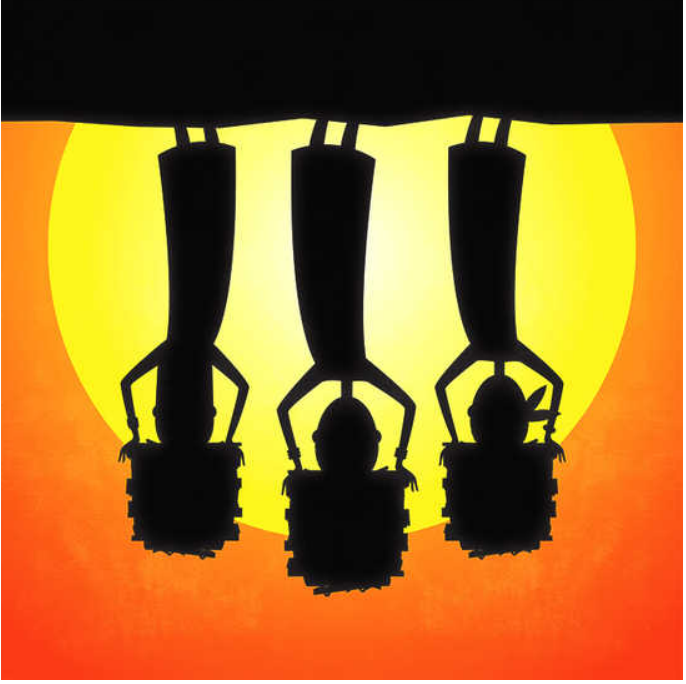


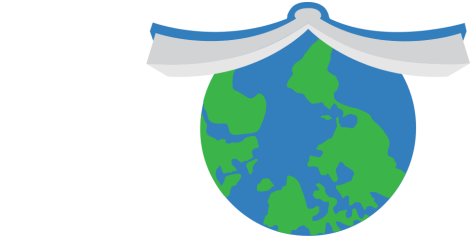
ノジバリス三本の鬚の毛



Tessa Welch
Wiehan de Jager
Masato Tanaka

3

日本語



Global Storybooks

globalstorybooks.net

ノジバリス三本の鬚の毛

Tessa Welch
Wiehan de Jager
Masato Tanaka



This work is licensed under a Creative Commons Attribution 3.0 International License.
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>





むかしむかし、三人の女の子が薪を集
めに出かけました。



その日はとても暑く、三人は川へ泳ぎに行きました。三人は水遊びをしました。水の中を泳いだりしました。



すると、犬はノジバカが自分をだましたことに気がつきました。犬は村に向かって走り続けましたが、村ではノジバカの兄弟が大きな棒を持って待ちました。犬はふり返って走りさっていき、それ以来現れることはありませんでした。



突然、三人はおそい時間になっていることに気がつき、急いで村に帰ろうとしました。



犬は家に戻るとノジベレを探しました。「ノジベレ、どこにいるんだい!」と叫びました。すると、「ベッドの下にいるよ」と一本目のかみの毛が言いました。二本目が「扉の後ろにいるよ」と、三本目が「囲いの中にいるよ」と言いました。

村の近くまで来たところで、ノジバルが首元に手を当てました。ノジバルはネットワークスを忘れてきてしまったのです。「お願い、一緒に戻って！」と彼女は二人に頼みました。しかし二人はもう時間がおそすぎると言いました。



犬が出て行ってすぐに、彼女は自分のかみの毛を三本抜きました。一本をベッドの下に、一本を扉の後ろに、もう一本を囲いの中に置くと、できるだけ速く村へ向かって走りました。





ノジベレは一人で川に戻ることにしました。ノジベレはネックレスを見つけると村に急ぎました。しかし、彼女は夜道で迷ってしまったのです。

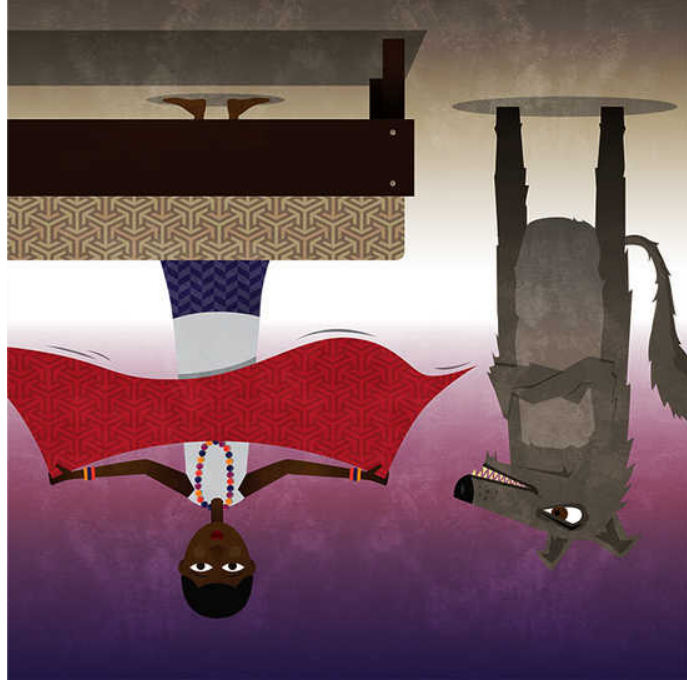


ノジベレは毎日犬のために料理やそうじ、せんたくをしました。ある日犬がこう言いました。「今日は友達のところに行かなきゃ行けないんだ。帰ってくる前にそうじやせんたくをして、何か作っておくんだよ。」

遠くに小屋の光が見えました。そこに急いで向かい、扉をたたきました。



すると、「ベッドを用意しろ」と犬は言いました。ノジバが「犬のベッドを用意したことなんかいいわ」と答えると、「用意しないとかみつくよ!」というので、彼女はベッドを用意しました。





驚いたことに、犬が扉を開けて、「何がほしいんだい? 」と言いました。

「迷ってしまったので寝る場所がほしいのです」と彼女が答えると、犬は「おいで、じゃないとかみつくよ」と言いました。



中に入ると、犬が「何か作ってくれ」と言いましたが、ノジベレは「犬にごはんを作ったことなんかないわよ」と言いました。すると犬は「作らないとかみつくよ! 」というので、ノジベレはごはんを作りました。